



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

## 試験報告書

第 205051168-002号  
2005年(平成17年)06月21日

依頼者 HBI (ヒューマス・バイオ・インダストリー)

検体 やさい元気君 原液

表題 抗菌力試験

2005年(平成17年)05月18日当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター

東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号  
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番



## 抗菌力試験

### 1 依頼者

HBI (ヒューマス・バイオ・インダストリー)

### 2 検体

やさい元気君 原液

### 3 試験目的

検体の細菌に対する抗菌力を試験する。

### 4 試験概要

検体に大腸菌, 緑膿菌, サルモネラ, 黄色ブドウ球菌又は腸炎ビブリオの菌液を接種(以下「試験液」という。)後, 室温で保存し, 30分, 24及び48時間後に試験液中の生菌数を測定した。

### 5 試験結果

結果を表-1に示した。



表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対象	試験液1 ml当たりの生菌数			
		開始時*	30分後	24時間後	48時間後
大腸菌	検体	$1.7 \times 10^5$	$7.6 \times 10^4$	$1.2 \times 10^4$	$1.1 \times 10^3$
	対照	$1.7 \times 10^5$	$1.6 \times 10^5$	$1.5 \times 10^5$	$1.4 \times 10^5$
緑膿菌	検体	$2.5 \times 10^5$	$9.8 \times 10^4$	<10	<10
	対照	$2.5 \times 10^5$	$2.1 \times 10^5$	$2.7 \times 10^5$	$1.4 \times 10^5$
サルモネラ	検体	$1.9 \times 10^5$	$1.5 \times 10^5$	$7.9 \times 10^3$	$1.2 \times 10^3$
	対照	$1.9 \times 10^5$	$1.9 \times 10^5$	$2.9 \times 10^5$	$2.0 \times 10^5$
黄色ブドウ球菌	検体	$3.8 \times 10^5$	$3.3 \times 10^5$	<10	10
	対照	$3.8 \times 10^5$	$4.1 \times 10^5$	$4.5 \times 10^5$	$1.6 \times 10^5$
腸炎ピブリオ	検体	$3.1 \times 10^5$	<10	<10	<10
	対照	$3.1 \times 10^5$	$2.3 \times 10^5$	$3.1 \times 10^4$	$2.0 \times 10^4$

<10：検出せず

対照：精製水(腸炎ピブリオは3%塩化ナトリウム溶液)

保存温度：室温

\* 菌液添加直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

## 6 試験方法

### 1) 試験菌株

*Escherichia coli* NBRC 3972(大腸菌)

*Pseudomonas aeruginosa* NBRC 13275(緑膿菌)

*Salmonella enteritidis* NBRC 3313(サルモネラ)

*Staphylococcus aureus* subsp. *aureus* NBRC 12732(黄色ブドウ球菌)

*Vibrio parahaemolyticus* RIMD 2210100(腸炎ピブリオ)

### 2) 菌数測定用培地及び培養条件

腸炎ピブリオ以外：SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]，35℃±1℃，2日間

腸炎ピブリオ：3%塩化ナトリウム加SCDLP寒天培地，35℃±1℃，2日間



3) 試験菌液の調製

腸炎ビブリオ以外：

試験菌株を普通寒天培地 [栄研化学株式会社] で  $35\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 1\text{ }^{\circ}\text{C}$ 、18～24時間培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が約  $10^7/\text{ml}$  となるように調製し、試験菌液とした。

腸炎ビブリオ：

試験菌株を3%塩化ナトリウム加普通寒天培地で  $35\text{ }^{\circ}\text{C} \pm 1\text{ }^{\circ}\text{C}$ 、18～24時間培養した後、3%塩化ナトリウム溶液に浮遊させ、菌数が約  $10^7/\text{ml}$  となるように調製し、試験菌液とした。

4) 試験操作

検体10 mlに試験菌液を0.1 ml接種し、試験液とした。室温で保存し、30分、24及び48時間後に試験液1 mlをSCDLP培地 [日本製薬株式会社] (腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム加SCDLP培地) 9 mlに添加し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いた混釈平板培養法により測定した。

なお、対照として、精製水 (腸炎ビブリオは3%塩化ナトリウム溶液) を用いて同様に試験し、開始時についても行った。

以 上